

For

Our Policy is

" For the Society , For the Patient , For Myself "



Photo by H.SASAKI

C O N T E N T S

- 映画紹介 『酔いがさめたら、うちに帰ろう』……………1・2
- 病気について 『アルコール依存症』……………3・4
- トピックス 『青仁会・秋の出来事』……………5
- おすすめの一冊 『老いをめぐる12+1話』……………6
- 花言葉 『サルビア・スプレデンス』……………6

酔いがさめたら、うちに帰ろう。

やっとみつけた、
どん底での希望。

それは
“**こころの居場所**”
に帰ること。



©2010シグロ/バップ/ビターズ・エンド

～カッコ悪くても、傷ついても、一緒に生きる。家族だから～

Story

「来週はシラフで家族と会うのです。きっとです。」

…と言いながらウォッカを飲み、血を吐いて気絶した戦場カメラマンの塚原安行。母・弘子は慌てつつも、慣れた様子で救急車を呼び、救急隊員に掛かり付けの病院を伝えている。その場に駆け込んできた、売れっ子漫画家の園田由紀が、「大丈夫、まだ死なないよ」と安行の頬をさすった。ふたりは結婚し、子供にも恵まれたが、安行のアルコール依存症が原因で離婚し、今は別々に暮らしている。安行は病院に運ばれ、そのまま3ヶ月の入院になった。



©2010シグロ/バップ/ビターズ・エンド

それは10回目の吐血だった。知り合いの医師を訪れ、アルコール依存症について尋ねる由紀。医者は身を乗り出し「ほかの病気と決定的に違う一番の特徴……それは、ほかの病気と違い、世の中の誰もほんとうには同情してくれないことです。場合によっては医者さえも」と言った。その言葉は由紀の胸に深く突き刺さる。

退院後、抗酒剤を服用し禁酒している安行は、穏やかな日々を過ごしていた。



©2010シグロ/バップ/ビターズ・エンド

そんな時に、一人でふらっと入った寿司屋で出された奈良漬け。

「酒じゃないから大丈夫か」とパクリ……。数分後、安行はコンビニの酒棚に直行していた。気がつくと、酔っ払って転倒し頭から血が流れていた。

「ああ……奈良漬け……」意識がかすんでいく。



©2010シグロ/バップ/ビターズ・エンド

後日、タクシーに乗りある場所に到着した安行と弘子。驚いている安行をその場に残し、「ここは精神科病院。あなたは入院するんです」と言って弘子は足早に中へと入ってゆく。嫌々ながら入院したアルコール治療病棟だったが、ここでの風変わりだけど憎めない入院患者たちとの生活や、個性的な医者との会話は不思議な安堵感を与えてくれた。

体力も心も回復に向かっていくかに見えた安行だったが、その体にはもうひとつの大きな病気をかかえていた……。

～「酔いがさめたら、うちに帰ろう」公式サイトより



©2010シグロ/バップ/ビターズ・エンド

アルコール依存症とは？

アルコール依存症とは、薬物依存症の一種で、飲酒などアルコールの摂取によって得られる精神的、肉体的な薬理作用に強く囚われ、自らの意思で飲酒行動をコントロールできなくなり、強迫的に飲酒行為を繰り返す精神疾患です。また、暴言・暴力によって家族がストレス障害に陥る事もあります。また、「アルコール依存症」は「家族の病気」でもあり、家族への助言・支援が欠かせません。

おすすめコメント

人気漫画家・西原理恵子さんの元夫で、戦場カメラマンの鴨志田穰さんが、自身のアルコール依存症の経験をつづった自伝的小説を、『絵の中のぼくの村』でその名を知られる東陽一監督が、その原作にほれ込み4年の歳月をかけて映画化した人間ドラマです。

自分勝手だけど憎めない主人公を、東陽一監督の『わたしのグランパ』に出演した浅野忠信、その妻には「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」の永作博美が扮し、どん底の状況で主人公が自分と向き合い、家族という“心の居場所”を見いだしていく姿が胸を打つ感動作です。

この映画をご覧になり、今一度「家族」の大切さを考えてみてはいかがでしょうか。

(文 南寿の里 金子真子)

2010年12月4日(土)

シネスイッチ銀座・テアトル新宿ほか
全国ロードショー

監督：東陽一
出演：浅野忠信・永作博美
主題歌：忌野清志郎
配給会社：ビターズ・エンド

アルコール依存症の治療について

アルコール依存症の危険

あなたは大丈夫?

- 迎え酒、朝酒飲んで妻や子供に注意された。
- 罪悪感がある。



- お酒やめたいけど、やめられない。
- 飲まないと不安。
- 飲酒をやめると手のふるえ、発汗、イライラ、眠れないなどの症状が出る。

- 翌日仕事があるのに支障あるほど飲んでしまう。
- 上司にも注意を受けたがやめられない。

- 肝機能が悪くて入院した。
- 酒をやめるように言われたが、やめられない。

※アルコール依存症の自殺者が多い。

アルコール依存症悪化のプロセス

酒浸りの生活を送ることで、身体の不調を起こし病院を受診するようになります。医師から禁酒するように言われ治療を終了します。しかし、身体の調子が戻り再び飲酒するようになり、自分自身で飲酒量をコントロールできず、再び体調を崩すことに繋がってしまいます。この流れが悪循環を招くこととなります。周囲でサポートしている家族は、「依存症ではない」、「まだ大丈夫」、「精神科には行きたくない」という思いにより、治療が遅れる事で、心身の悪化・人間関係の悪化・経済状況にも影響を及ぼす結果となります。

なぜ、精神科での治療が必要なのでしょう?

アルコール依存症は、自分の意思では飲酒行動をコントロールできなくなる病気です。またアルコール依存症であると認めることが出来ないという特徴があります。早期発見と早期治療が必要です。

治療は①断酒、②身体症状、精神症状の改善、③病識の獲得を促します。その為、専門の精神科病院で治療することが必要です。



アルコール依存症治療プログラムの紹介

治療の対象としている患者様は、お酒をやめたいのにやめられない状況にある方で、本人に治療する意思を持っていることが条件です。当院での入院治療プログラム(3ヶ月)は次のとおりです。

第Ⅰ期(1か月目) ~身体的な治療と検査とお酒の害についての治療と教育が中心です~

血液検査、頭部CT、心理検査、身体的治療(点滴療法)などを行います。

2~7日

ビデオテキストを使用してアルコール依存症を学びます。

プログラム開始~4週目

第Ⅱ期(2か月目) ~これまでの対人関係について振り返って考えてみます~

内観療法

5~8週目

内観療法は、患者様本人にこれまでの自分にとって重要な人物との関係を振り返り、関係を見つめなおし、愛されていたことを再体験し、迷惑をかけてきたことなどを振り返るものです。当院では、心理技術員や看護師が中心となって約1か月間静かな環境の中で行っています。

第Ⅲ期(3か月目) ~退院後の家庭・社会での基本的な安定した生活の確立を目指します~

再スタートミーティング

9~13週目

自助グループ参加

家族勉強会

外泊訓練

酒歴発表、退院

退院後の断酒を継続するための集まりである断酒会とAA(アルコホーリクス・アノニマス)を入院中から見学参加します。

再スタートミーティングを全8回行います。これは、プログラムを通して考えた事、感じたことをまとめていく治療で、3ヶ月目に心理技術員が実施していきいます。それを通して今までの飲酒問題を認め自問自答し、これからどのように行動していくかを同じ病気の仲間やスタッフと整理します。

退院後の生活について具体的に話し合い、それを行動へ移していく訓練をします。

当法人の青南病院では、平成12年からアルコール依存症に関しての専門的な治療を行っております。

お気軽にご相談ください。

診療科:精神科・神経科・心療内科

外来診療:月曜~土曜 午前9:30~午前11:30

休診:日曜

※待ち時間軽減のため「予約制」で行っています。

TEL.0178-27-2016



青仁会・秋の出来事

青仁会ふれあい秋祭り

当法人の活動内容について、施設を開放し、また入院患者様及び入所者様、施設利用者様などの障害者の皆様、地域住民の皆様との交流を深め、地域医療の普及を図ることを主な目的とし、当法人ではふれあい秋祭りを年1回開催しております。

今年は、平成22年9月11日に行われました。雨の中、125余名の慰問の方々にお越し頂き、パトンや保育園児による演芸、吹奏楽などの演芸が行われました。



参加して下さった方々、本当にありがとうございました。

八戸液化ガス株式会社様から 車椅子寄贈

八戸液化ガス株式会社様より、車椅子1台寄贈して頂きました。

取締役常務執行役員 高橋秀美様のお話では、日頃、液化ガスを使用している施設に感謝の意味を込めて寄贈しているそうです。

平成22年10月5日(水)、当苑で寄贈式を行いました。花柄模様の落ち着いた色彩であり、職員、利用者様から大変喜ばれています。

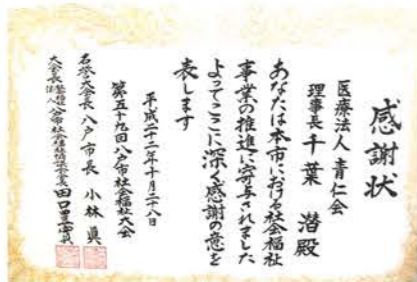
今後、大切に使用していきたいと思えます。



八戸社会福祉協議会から 感謝状 授与

平成22年10月28日(木)、第59回八戸市社会福祉大会が開催されました。昨年度青仁会創立50周年記念式典にて、その席上、地域福祉の発展に役立てて欲しいと、寄付をさせて頂いたことに対して、感謝状を下付頂きました。

今後とも社会福祉の発展の為、法人全職員をあげて取り組んで参りたいと思えます。



八戸田面木小学校生徒さんが 育てた 菊花展示

平成22年11月17日(水)、田面木小学校5年生のみなさんが、一生懸命育てた菊花を、南山苑(介護老人保健施設)のお年寄りのもとへ、届けて下さいました。入所者のみならず職員一同も素晴らしい花の数々に、ほっと心を癒され、ゆく秋を満喫させて頂きました。田面木小学校の5年生のみなさん、本当にありがとうございました。



..おすすめの一冊..

「老いをめぐる12+1話」

認知症、うつ状態、性、そして死等にまつわる
高齢者のこころの物語。



著書：三宅 貴夫
出版社：ユー・ジーン

【あらすじ】

本書では老年科医の著者が出会った、多くの高齢者の心の問題を物語風に紹介しています。認知症といった高齢者にみられやすい病気に限らず、うつ状態、心気症、妄想症、性格障害、不眠、性、そして死をテーマにした13の話を紹介しています。「12+1」の表題にも意味があり、最後の13章では著者が数ある出会いの中で教えられた望ましいと思われる老人の生き方が記されています。

【所感】

自分の「老い」を見つめ、その中でどのように生きていくか。家族の「老い」を感じ、それを支えるために、どう行動すべきか...人が老いる意味についてふと考えさせられる体験談が詰まった一冊です。

高齢者医療の第一線に立つ医師が体験したさまざまな「老い」の形から、「老い」というものを見直す機会を与えてくれる一冊だと感じられます。
(青南病院 中村 文洋)

花ことば

- 名前由来■ サルビア(Salvia)はシソ科の仲間種類が多く、スプレンドス(splendens)は「強く輝く」という意味が含まれている。
- 花言葉■ 燃えるこころ 知恵 家族愛

サルビア・スプレンドス(シソ科)

開花時期：5月頃～11月頃

原産地：ブラジル

和名：緋衣草(ひごろもそう)

別名：スカーレット・セージ

用途：花壇、鉢植え、切花、ハーブ

朝顔、ヒマワリなどと共に、子供の頃の記憶に残っている花の一つに数える方も多いと思います。花壇に植えてある赤い花として、ポピュラーな花です。

咲き終わった花穂の処理や切り戻しを行なうことで、きれいに咲き続けることが出来ます。ハーブとしても使われる、用途が広い花です。



私達の理念

みんなのために

すべての人達に、分け隔てない最善の医療を提供するよう努め、
社会のニーズに応じて、自分達の出来る事を、実直に行っていきます。

あなたのために

利用者本位を基盤とした、こころ暖かな医療環境と
安心して受けられる安全な医療の提供に努めます。

わたしのために

自分達の仕事に誇りと責任を持ち、
自らに満足のいく仕事内容であるよう専心いたします。

[診療・ご利用案内]

精神科・神経科・心療内科 **青南病院** ☎0178-27-2016
●受付時間 8:30~11:30 午後は予約診療となります。土曜日午後・日曜日休診
医療機能評価認定病院です。

通所リハビリテーションセンター **青陽館** ☎0178-27-2016
●様々な社会復帰に向けたプログラムを用意しています。

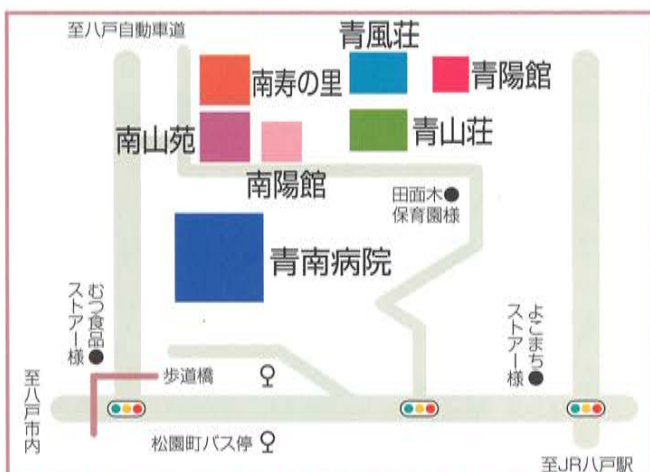
介護老人保健施設 **南山苑** ☎0178-27-3027
居宅介護支援事業所 **わえみ** ☎0178-46-5222
高齢者通所リハビリテーション施設 **南陽館** ☎0178-27-3009
●入所及びショートステイ、デイケアなどお気軽にご相談ください。

認知症対応型共同生活介護
(グループホーム) **南寿の里** ☎0178-27-3027
●家庭的な雰囲気を提供いたします。気軽にご相談下さい。

精神障害者生活訓練施設 **青山荘** ☎0178-27-6638
●自立・社会復帰・社会参加のお手伝いをいたします。

精神障害者福祉ホーム **青風荘** ☎0178-27-7658
●入院の必要性はなく、住居の問題や多少の身辺自立に問題ある
精神障害者が対象になります。お気軽にご相談ください。

訪問看護ステーション **五福** ☎0178-41-1622
●営業時間 月～金曜日 8:30～17:30
営業日・営業時間外の訪問についてもご相談に応じます。24時間体制で看護相談に応じます。



《交通アクセス》東北本線八戸駅よりバス約6分、八戸ICより車約1分

当法人では意欲のある人材を募集しています。



Photo by Y.HAYASHI

発行者/医療法人青仁会
千葉 潜

発行日/平成22年12月24日
年2回発行